




🍓 02　横浜まんまるいちご農園

一期一会ないちごの出会い〜一粒のいちごに、想いを込めて。

いちごの栽培から収穫まで、一つひとつの成長を見守りながら取り組んでいます。そして**観光いちご農園「横浜まんまるいちご農園」**を2025年に開所。いちご狩りを地域の多くの皆さんに楽しんでいただいております。

赤く実ったいちごを手にしたときの喜びは、何ものにも代えられません。

育てる楽しさ。収穫する喜び。届ける喜びを大切に。





🌱 01　農耕班〜新治の畑とまんまる太陽自然農園にて、土にふれ、未来を育てる。

野菜の栽培や水田、畑の手入れなど、季節を感じながら農作業に取り組んでいます。今年からぶどうの栽培と栗の収穫、販売に挑戦。自分たちで育てた作物が少しずつ成長し、収穫を迎える。その喜びや達成感が、次の「やってみたい」につながっています。稲刈り体験は地域の子どもたちの楽しい行事にも利用されています。

「育てる」ことから、「自分の可能性」を育てる仕事です。






🥬 03　野菜パッキング事業〜「まんまる野菜村」の展開〜「つくる」から「届ける」へ。

地方の農家などから届いた野菜を、袋詰め・パッキング・シール貼りなどを行い出荷準備をする仕事です。大きさや状態を確認しながら計量し袋詰め。一つひとつ丁寧に仕上げています。

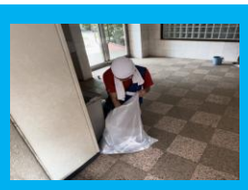
自分たちが携わった野菜が、お店に並び、誰かの食卓に届くことが喜びです。

農家さんを手助けし、地域の「食」を支える、大切な仕事です。

🧹 04　マンション清掃班〜きれいな街は、誰かの仕事でできている。

マンションの共用部分などの清掃を委託業務で行っています。掃き掃除や拭き掃除など、一つひとつの作業を丁寧に積み重ねています。きれいになった場所を見る達成感と、住民の方から自然と「ありがとう」と声をかけてもらえる喜びがあります。

地域の暮らしを、陰から支える仕事です。


そして幸陽園では再整備計画の真っ最中です。施設の機能を地域に開放していく新しい事業所建設を2028年を目指して企画しているところです。今、最も熱い幸陽園、是非、お立ち寄りください。いちご狩りもよろしくおねがいします。インスタでチェックお願いします。

事業所紹介

〜 幸陽園 〜

・生活介護50名
　横浜市保土ケ谷区上菅田町 1749

幸陽園では、農福連携事業の総合的な展開を行い、農耕、観光いちご農園、清掃、厨房、マルシェなど利用者の皆さんがさまざまな仕事と活動に挑戦しています。**「仕事を通じて地域とつながる」**一人ひとりの「できる」と「やってみたい」を大切に、これからの幸陽園をみんなで作っていきます。利用者の皆さんが地域を担い、活性化させる主人公です。幸陽園は法人と共にまもなく50周年。そんな幸陽園の今の最先端のチャレンジをどうぞご覧ください。

🌿 05　駐車場除草班〜街を整え、気持ちも整える。

駐車場や高齢化の進む団地の除草作業を行い、地域の環境をきれいに整えています。

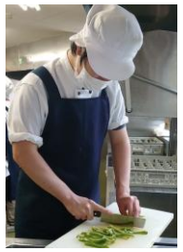
暑い日も仲間と一緒に取り組み、きれいにすっきりと作業を終えたときには大きな達成感があります。

誰かがやらないと草は生い茂ってしまいます。誰がやっているんだろう？そう私たちです。

自分たちの仕事が、街の景色を変えていきます。






🍅 07 幸陽園マルシェ〜畑と地域を、つなぐ場所。

幸陽園で育てた野菜やいちご、まんまる野菜村からの野菜を、千丸台団地と法人の地域交流の場「まんまる食堂」にて地域の皆さまへ直接お届けしています。「これ、おいしかったよ」「また買いに来たよ」そんな地域の方とのやりとりも、マルシェの大きな魅力です。

つくる人と、食べる人。人と人をつなぐ仕事です。









🤝 08　自治会「幸陽会」

自分たちの暮らしは、自分たちでつくる。

幸陽園では、仕事だけでなく、**「どんなふうに暮らしたいか」**を考えることも大切にしています。

自治会「幸陽会」では、みんなで話し合い、やりたいことを考え、イベントを企画したり、日々の暮らしについて意見を出し合ったりしています。

楽しいことも、困っていることも、みんなで考える。

「自分たちの声」を大切にしながら、より良い暮らしをみんなでつくっています。

🔍 06　厨房班〜食をつくる。暮らしを支える。

毎日の食事を支える厨房班。調理や盛り付け、配膳、片付けなど、それぞれの役割を担っています。毎日当たり前にある「食事」も、誰かの仕事によって支えられています。

「おいしい」の一言が、明日の力になります。